

ストリートピアノの可能性

— 東京都北区・埼玉県川越市の事例を中心に —

「ストリートピアノ」と呼ばれる誰でも自由に弾くことができるピアノが国内で急増しており、今日では全国で約 600 台のピアノが音を鳴らしている。ストリートピアノを地域社会に設置することで得られる効果にはどのようなものがあるのだろうか。先行研究では、駅や商業施設に設置されたストリートピアノを契機に新たな出会いが生まれ、設置場所の活性化に寄与することが証明されている。しかし、中期的な視野でストリートピアノが地域社会にもたらす効果を研究した例はない。そこで本研究では、「地域社会にストリートピアノを設置することで域外から演奏者や聴衆が集まる新たな観光資源となり、地域住民の間にはストリートピアノを介したソーシャル・キャピタルが構築され、総じて地域の活性化に寄与する」ことを明らかにする。

第 1 章では、ストリートピアノが新たな地域社会の観光資源になることを証明するために Google フォームを作成し、約 4500 人が所属するストリートピアノ JAPAN のメンバーを主な対象に Facebook 上でアンケート調査を行った。127 名の方から回答を得ることができ、ストリートピアノをメインとした小旅行（移動）をしたことがある人が全体の約 40% を占めていることが明らかとなった。このことからストリートピアノは単なる待ち合わせ等の暇つぶしのために利用されるだけでなく、ストリートピアノを一番の目的に設置場所に足を運ぶ人もいることが考えられる結果となった。

第 2 章では、ストリートピアノ設置場所が地域住民のサードプレイスになることを証明するために、東京都北区と埼玉県川越市で定期的に行われている寺ピアノに訪れ、来場者を対象にアンケート調査を行った。その結果、北区と川越市の双方で Oldenburg が提唱するサードプレイスの 8 条件（①中立性②社会的平等性の担保③会話が中心に存在すること④利便性があること⑤常連の存在⑥目立たないこと⑦遊び心⑧感情の共有）に該当している点が多くあることから、地域に開かれたストリートピアノは来場者や運営スタッフにとっての居心地の良い場所になっていると推測できる。

第 3 章では、地元の有志がストリートピアノのイベントを企画し運営することで、シビックプライドの向上に寄与することを明らかにするために、小江戸川越夢ピアノプロジェクト様のご協力の下、質的調査を行った。その結果、地元の商店街や他団体などとも協力してイベントを企画していることがわかり、ストリートピアノを介して地域の様々な人と繋がりを持ち、自発的に街の活性化に尽力していることが明らかとなった。

今後は流行に伴い、更にストリートピアノが国内で増加することが予想される。ストリートピアノを設置する際は、地域住民や自治体といかに連携を取ることができるかが重要になってくるだろう。